

平成 24 年度 大田区区民協働推進会議（第六回）

次 第

平成 25 年 2 月 5 日（火）
18 時 30 分～20 時 30 分
本庁舎 教育委員会室

- 1 地域力・国際都市担当部長 あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 地域力応援基金スタートアップ助成の継続審査
 - (1) 継続審査結果確認
 - (2) 審議
- 4 地域力応援基金ステップアップ・ジャンプアップ助成の継続審査
 - (1) 継続審査結果確認
 - (2) 審議
- 5 審議事項
高齢者や子どもの居場所づくり・サロン活動の事例を通して、連携・協働のポイントを探る。
- 6 平成 24 年度第七回推進会議について（今期最終）
開催日 3 月 5 日（火）、6 日（水）、8 日（金）開催予定
開催時間 18：30～20：30
- 7 その他
被災地支援等の報告

【出席者】

青木委員 大塚委員 平林委員 北間委員 中島委員 伊藤委員 神田委員 遠藤委員
田中委員 山本委員
地域振興部地域力・国際都市担当部長、区民協働担当課長、地域力連携協働支援員
区民協働担当

事務局 議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。定刻になりましたので、第 6 回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。本日、委員 11 名のうち 10 名の方にご出席いただいています。会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。

部長 あいさつ

会長 あいさつ

事務局 この後は、会長に進行をお願いできればと思います。

会長 それでは会議を始めさせていただきます。これより審議に入らせていただきます。まず、「スタート・ステップ・ジャンプ助成の継続審査」について事務局より説明をお願いします。

—地域力応援基金助成事業 継続審査の部分は非公開—

会長 それでは継続について全団体を区長に推薦します。その他、感想はありますか。

委員 ステップアップ・ジャンプアップ助成は助成団体の半分が NPO ですね。これら NPO がシニア世代の働く場の受け皿になるという感想を持ちました。

会長 人と人のつながりをつくり、成果を出していくのが協働ですね。

委員 スポーツ指導者研究会の活動には感銘を受けました。そこで体操をして元気になり、地域でボランティアをするようになった人もいて、期待がもてる活動だと思いました。

会長 成果があがった事業ですね。助成事業のその後を調査し、成果を公表していくことが大切です。ここだけではもったいないと思います。

委員 2008 年の改正によって法人格がとりやすい一般社団法人が増えていくと思われまます。NPO 法人は活動分野や理事など制約が多いので、これからはいろいろな法人団体がでてくると思います。

会長 大田区はどんな団体でも受け入れていくのですよね。

事務局 そうです。

委員 別の会議では、年度の報告書と提言を作成しています。この会議でも作成して次の方につなげて欲しいと思います。

会長 その他ご意見等がないようでしたら、高齢者や子どもの居場所づくり・サロン活動の事例研究について事務局より報告をお願いします。

支援員 資料 3-1 と 3-2 をご覧ください。これまでの流れの説明と、追加調査について報告します。前回の推進会議から今日までに 2 件の調査をしました。

「学び」（社会教育・生涯学習）を通じ、学習者である高齢者自らが生み出している居場所という観点で調査しました。羽田高齢者学級は、昭和 50（1975）年に教育委員会によって組織された高齢者学級に始まり、平成 13（2001）年から自主運営しています。羽田地区の 18 の寿会（老人クラブ）で構成する「羽田寿連合

会」に所属しています。第1・第3月曜日午前午後は、羽田老人いこいの家（ゆうゆうクラブ）で、茶道、社交ダンス、詩吟、第2・第4月曜日午前午後は、萩中集会所で、書道、手芸、折り紙、大正琴、社交ダンスを行っています。平成24年度の生徒数は251人、平均年齢は78.5歳であります。毎年度末に、羽田小学校体育館で終業式を行っています。記念誌も5年ごとに発行していますが、資金面で大変なので、発行の間隔をもう少し延ばそうかなどといった課題もあるようです。

六郷体操クラブは、昭和49（1974）年から12年間続いた、教育委員会主催のスポーツ教室「高齢者健康体操」を前身とし、昭和60（1985）年から社会教育団体として自主運営してきました。毎週火曜日の午前10時から11時30分まで、六郷文化センター体育室で健康体操を行っています。また、年2回のバスハイキング、おひなさままつり、クリスマス会なども行っています。会員は120人くらい、平均年齢は70歳くらい、会長以外はすべて女性です。10人くらいの役員で運営を行っています。

次に、「高齢者や子どもの居場所づくり・サロン活動」の追加調査の回答について説明します。調査した10事例の協働についてアンケートを取りました。地域の他団体等との協働が「ある」ケースと地域の他団体等との協働が「ない」ケースをそれぞれ表にまとめています。

協働の形態は千差万別です。協働の意識をもって進めている事例、手探りの事例もあります。言えるのは、最初に問題に気がつくのは住民の有志やNPOであるにしても、地域の課題として認識されていくためには、地縁団体なども仲間に加えていく必要があるということです。そういう意味でうまく協働ができているところと、これからだなというところが見えてきました。

前回、皆さんからいろいろなご意見をいただきました。歩いていける距離にある町会会館が、居場所づくりやサロン活動の会場として重要性が高まっている居場所づくりやサロン活動では、使用する施設の耐震性や安全性、ボランティア保険などに配慮する必要がある。配食サービスは、配達も調理もボランティアであり、居場所づくりやサロン活動もそうであるが、ボランティアの場合、継続するためには工夫が必要である。区民大学で学んでいるリタイア男性たちが、器のあるところに出かけるだけでなく、自分で活動をつくっていける人になるとよい。区民活動も起業であり、たくさん立ち上がることが必要で、よい事例を広めること、自立した活動が増えるように支援することが、区役所の役割ではないか。地域のコミュニティを作っていくうえでは、防災が最もよいテーマではないか。子育て支援NPOとして、居場所づくりやサロン活動で協力することができる。保護司会として、更生活動の一環としてボランティアする場が必要になる、いざというときに協働するためには、日頃からのつながりが必要である、協働は、常に一緒にやるのではなく、一緒にやれることについて一緒にやるということでのよい、などのご意見をいただいています。

今回が議論できる最後の機会になります。次回は作成した報告書を事前にお送りして、文章を直したり、内容を確認してもらったりしたいと思っています。今回の論点は3点です。①居場所づくり・サロン活動において、地域団体間の協働が進むためのポイントと考えられるのは何でしょうか。②地域団体間の協働が進む

ために、区としてはどんな役割を担うのが望ましいでしょうか。③継続のための課題として挙げられている担い手や資金の確保について、どんな方策が考えられますか。ご議論いただきたいと思います。よろしくお願いします。

会長 ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。

委員 資料の表の中にある協働相手と協働したい相手の区別は何ですか。

支援員 現状の相手とこれからの相手という意味です。

キネマティーンズプラザでは、東蒲中学校はすでに協力しています。団体のメンバーは地域外の人なので、将来的には地域の人たちが担っていくことを描いており、お願いしても、PTA では負担が増えることは難しいという面もあります。

委員 この活動をPTA は好ましいと思っているかがかぎですね。

支援員 校長先生の権限でできる部分は大きいのですが、お願いしてもPTA では、負担が増えるとむずかしいのですが、こういった活動を知ってもらおうとよいかもしれません。

委員 ものづくりで中学のPTA は協力していると聞いていますが

支援員 東蒲中学校は、いじめを起こさないための積極的な取り組みがあることでも知られています。

委員 この取り組みのチラシを見ました。リラックスする場所なら、学校やPTA の人がいる場所じゃない方がよいと思います。地域の人がいた方がよいと受け取りました。

委員 PTA の方には子どもがここに来ることを理解してもらうことですね。

会長 取り組みの事業名が似ていると思いました。今の時代を映しているように思います。論点の②の区としての役割を考えてみました。行政がテーマを打ち出し、うまく連携ができることを作り出していくものを考えていくとよいと思います。マンネリ化せず別の視点からみることが大切だと思います。進歩していきたいですね。

委員 私も同意見です。

支援員 大田区は広いので、一つ一つはどこかの場所で取り組まれています。事例を他地域に紹介して広げていけるとよいと思います。行政から働きかけがある場合、出張所の単位で取り組むのがよいのではと個人的には思います。

会長 他の組織と連携できることも大切ですね。

委員 大田区の特長や追加調査の回答をみると自治会・町会の連携から入った取り組みは光っていると思いました。一方、NPO の取り組みも光っています。お互いを認めていながら育てていき、先駆的な事例を研究してだんだんと変っていきながら地域づくりをしていく。区が情報提供していき進んでいく。PR や学ぶ場の役割が区にあると思います。高齢者や子どもは特に感じました。

委員 その観点から表を見ていくと、昔からのもの、新しいものとも、取り組みとしては光っているが連携している例はないですね。

委員 不入斗の取り組みではNPO の取り組みに町会長が入っています。こういうことが必要ではないでしょうか。すみ分けも課題とっています。お互いにやれるところをやっていけばよいと思います。不入斗の取り組みはモデルとなるのではないかと思います。

委員 不入斗は当該地域の町会ではなく、大森沢田西町会と結びついています。沢田西

町会はステップアップ助成で無縁社会の問題に取り組んでおり、地域を超えて問題が共有されたと思います。

委員 もしそうなら、今後、区に求められるものは、ステップアップ助成では、協働のポイントを高くするといった政策誘導も必要だと思います。

委員 新しい方向性が見出せるのではないですか。

支援員 沢田西町会の取組みは新しい町会長になって始まったものです。町会長が若くなることで、町会の動き方がNPO的な動きになる例が見られます。山王3,4丁目自治会は防災バンドを組んで歌っています。また、若いお母さんを中心に防災の絵本や紙芝居を作ったりしています。面白いことをやっている町会を調べ広めるのもよいと思います。

会長 情報を広げて、連携を奨励することで、どの団体と組むか発想が浮かんでくると思います。

委員 区からのテーマの提示の話がありましたが、区民がどんなことを望んでいるのかを吸い上げて、ニーズがあるかをつかむことが大切だと思います。NPOでできることを紹介することができると思います。

会長 区がテーマを啓発することで広がると思います。

事務局 それでは日程調整をお願いします。

《日程調整》

今回は、3月5日（火）に開催します。

会長 最後に「被災地支援の取り組み」について、事務局から報告をお願いします。

課長 《被災地支援資料に沿って報告》

区内被災者に企業から招待があり、1月にスカイツリーの見学に20名が参加しました。東松島では、鉄骨で7メートルのツリーを作りました。500人もの区民からのメッセージを貼りました。区内のお菓子屋さんを通じてロールケーキを寄付してもらいました。約300人がクリスマス交流会に参加しました。東名地区でのランチ交流会は、ふれあいセンターの開所式を兼ねて、大道芸のボランティアも来ました。大田区から区内高校生が参加し2月、3月も高校生を募集します。都立つばさ高校では報告会を開き、防災意識が高まったということです。報告は以上です。

会長 先日、池上会館で防災の講演を聴きました。東松島市の方も2人みえていて、大田区に感謝していました。資料ももらいまして、利用しています。実際に経験した人の話は迫力が有りました。大田区で引き続き被災地の支援をお願いします。それでは、時間もせまってきたようですので、この辺で会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。事務局をお願いします。

事務局 「NPO・区民活動フォーラム」について、事務局より報告します。1月26日、27日に実施しました。本庁舎と消費者生活センターを使って、開催しました。51団体が参加し、来場者数はのべ2900人でした。来場者数は今年の3倍以上となりました。1月31日に反省会を行い、来年のフォーラムに向けて、更に内容が充実したものとなるよう考えています。ご報告は以上です。

部長 これで、第6回 区民協働推進会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

《 終 了 》